

大阪医科薬科大学アレルギーセンター活動と難治性皮膚アレルギー疾患

福永 淳

大阪医科薬科大学 皮膚科学 准教授／アレルギーセンター 副センター長

---

大阪医科薬科大学アレルギーセンター（以下 OMPU アレルギーセンター）は2021年11月に発足し、1年半余りが経過いたしました。平成26年に成立したアレルギー疾患対策基本法に基づき「国民がその居住する地域に関わらず、等しくそのアレルギーの状態に応じて適切なアレルギー疾患医療を受けることができるよう、アレルギー疾患医療全体の質の向上を進めること」が社会から求められており、OMPUアレルギーセンターは北摂三島地区のアレルギーの拠点病院としての役割を果たすべく活動を行なっております。多臓器/多領域にわたるアレルギー疾患および重症例のアレルギー疾患に対して、横断的に検査および治療を集約し対応することを目的として、多診療科、多職種における横断的診療体系の構築と地域医療従事者、市民の皆さまに対する情報発信をセンター活動の中心的な目標に掲げております。地域医療従事者からのセンターへの患者紹介方法の構築、複数の診療科で同日に患者をフォローするシステムであるアレルギー総合診の確立、センターメンバーのアレルギー疾患療養指導師（CAI）の所得の推進、市民対象の市民公開講座・教育関係者対象の研修会・医療従事者対象のセンター主催の講演会を年に複数回実施し、北摂三島地区が『アレルギーにやさしい街』になれるよう努力を継続しております。

OMPUアレルギーセンター内での皮膚科としての役割は、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、血管性浮腫の治療、食物アレルギー・アナフィラキシー・薬物アレルギーの原因精査などが挙げられます。これらの疾患では有効性の高い新規治療薬が近年数多く登場しており、他臓器のアレルギー疾患の合併などの背景を踏まえて薬剤の選択を行なっております。即時型アレルギーの原因の精査に関しては、入院にて食物・薬物・運動負荷試験などを安全に行えるシステムを構築し積極的に原因の究明を行なっております。一方、即時型アレルギーまたは遅延型アレルギー症例に対しては、プリックテスト・皮内テスト・パッチテストのような信頼性の高い安全性の高い皮膚テストを活用し検査を行なっております。

本講演では、多診療科、多職種におけるOMPUアレルギーセンターで行なっている活動を紹介すると同時に難治性皮膚アレルギー疾患の病態解明の進歩と治療法の進歩についてお話しさせていただきます。